

VIEW next

先生方と共に創る 教育情報&オピニオン誌

[ビューネクスト] 高校版

2024

6

June

表紙の学校
北海道
岩見沢東高校

特集

定期考査は必要か？



今号の掲載校

宮崎県立宮崎東高校 定時制課程夜間部 / 岩手県・私立専修大学北上高校 / 奈良県立^{かしはら}橿原高校 /
奈良県立商業高校 / 鹿児島県立^{わくや}鶴丸高校 / 宮城県^{たけのこ}涌谷高校 / 東京都立竹台高校 /
奈良県・私立奈良育英中学校・高校 / 石川県立^{たいほうし}大聖寺高校

定期考査は必要か？

定期考査を廃止し、各教科・科目で単元ごとに実施する単元テストを導入する動きが徐々に全国の中学校や高校に広がりつつあります。

これまで多くの学校で欠かすことのできない評価方法として実施されてきた定期考査ですが、その意義・必要性を問うきっかけを学校現場にもたらしたと考えられるのが、高校では2022年度から実施された現行の学習指導要領です。それまでは定期考査などのペーパーテストで「知識・技能」を中心に測り、その結果が評定を算出する上で大きなウェイトを占める傾向がありました。しかし、現行の学習指導要領では、「知識・技能」以外の観点でも評価する観点別学習状況の評価の実施がこれまで以上に求められており、定期考査中心の学習評価のあり方に改善の余地があることが示されました。

本特集では、定期考査が抱える問題を整理しながら、その解決の糸口を、事例を通して考えていくとともに、「定期考査は必要か？」という問いを探究してまいります。

VIEWnext編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 事例1

再チャレンジ可能な単元テストによる評価で、目標に向けて主体的に学ぶ意欲を育む
岩手県・私立専修大学北上高校

P.8 事例2

学習評価のあり方を見直す起爆剤として、
全県立高校で定期考査を廃止

奈良県教育委員会

実践例 ● 奈良県立^{かしはら}橿原高校

教師間の密な対話を通じて評価方法を毎年更新。
生徒の質問の質が上がり、欠点者が減少

実践例 ● 奈良県立商業高校

実技も評価に組み入れ、指導と評価の一体化を推進。
資格取得率向上にもつながる

P.15 事例3

単元テストと伝統の実力考査で高い目標の実現を支援
鹿児島県立鶴丸高校

P.19 事例整理

自校の定期考査の現状と課題についての整理が
議論の第一歩

P.20 インタビュー

「よいテスト」は、生徒と教師をつなぐ
学びのコミュニケーションツール
名古屋大学大学院教育発達科学研究科 教授 ^{ひでとき}石井 秀宗

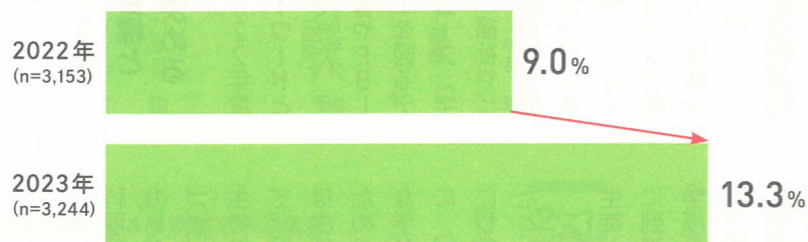
P.24 高校生座談会

私たちにとって「テスト」とは

高校教師の定期考査に対する考え

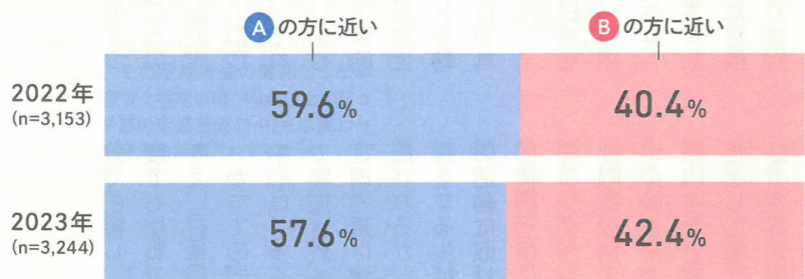
Q1 貴校について、 次のようなことはあてはまりますか。

◎学校全体で、定期考査の回数を減らすことを検討している



Q2 あなたが重視していると思う方はどちらですか。

A 指導改善や成績評価のためには、定期考査が欠かせない
B 指導改善や成績評価のためには、定期考査がなくても、単元テストがあればよい



※ Q1・2及びその結果は、ベネッセ教育総合研究所「学習指導調査2022」「学習指導調査2023」を基に編集部で作成。

現場の教師の声

定期考査は必要

- 複数の単元が範囲となる定期考査を実施することで、生徒の深い思考力を測ることができる。
- 定期考査で学習の量、質ともに少し高めハードルを設定し、乗り越えることが、生徒の成長には必要。
- 定期考査期間中や1週間前等は部活動等の活動の休止や活動時間の短縮があり、生徒の学習時間が確保される。
- 校内順位を知る重要な機会の1つ。
- 定期考査期間中はどの生徒も学習に没頭しやすい環境になる。

定期考査は不要

- 全校または学年で一斉に実施するため、出題範囲が単元の途中になることがあり、単元ごとの評価が行いにくい。
- 考査と考査の間の空きが長く、生徒の学習上のつまずきの発見や、理解度の確認の機会として不十分。
- 出題範囲が広く、生徒はいわゆる「一夜漬け」で乗り切り、考査後、学習した内容を忘れてしまうことがある。
- 考査前も含め、定期考査期間中は、部活動や探究学習等の諸活動を休止しなくてはならない。

定

期考査を廃止している高校は現時点ではまだ少ない。だが、定期考査を廃止したり、実施回数を減らすことを検討している高校は着実に増えており(Q1)。「また、指導改善や成績評価のためには、定期考査がなくても単元テストがあればよい」と考える教師は40%を超えている(Q2)。「現場の教師の声」が示すように、定期考査の存続にも、定期考査の廃止に

も、それぞれ納得できる理由が存在する。観点別学習状況の評価の実施がこれまで以上に求められる中、学習評価において重要な役割を担ってきた

定期考査は、これからも必要なのだろうか。その答えは、どのような点を考えれば出るのだろうか。

先生方とともに 考えたい「問い」

自校では定期考査は必要なのだろうか。
その答えは、どのような点を考えれば出るのだろうか。

再チャレンジ可能な単元テストによる評価で、目標に向けて主体的に学ぶ意欲を育む

岩手県・私立専修大学北上高校

岩手県・私立専修大学北上高校は、2023年度から普通科の一部の専攻で定期考査を廃止し、単元テストを軸にした単元ごとの評価を導入した。生徒が主体的に目標を設定し、学びの意欲を高められるように、単元テストの再受験を認め、その結果も総括的評価に組み込んでいる。再チャレンジが可能な単元ごとの評価は、教師や生徒にどのような変化をもたらしたのだろうか。

各教科・科目の到達目標と到達の時期を生徒が決める

専修大学北上高校は、2022年度から「未来を創る力」をキーワードとした普通科改革に取り組んできた。それまでの普通科を、探究学習やPBL（*1）を中心に学力の向上を図るディープラーニング（DL）コース（学問探究・PBLの2専攻）、福祉やビジネス、スポーツ科学などの専門分野を追究するアクティブラーニング（ALS）コースの2コースに改編。コース・専攻の目的に応じたカリキュラムの開発とともに、新しいシラバス（学期シラバス）の作成にも取り組んだ。

新シラバスの特徴は、学習の到達目標を生徒自身が決める点にある。教科・

科目ごとに、基礎・標準・発展の3つのレベルを設け、それぞれ学期ごとのTODO、CANDOをシラバスに明記。生徒は将来の志望や現状の学力に応じて、目指すレベルを自分で選ぶ。それは生徒がより主体的に学びに取り組むための工夫だ。そうした生徒の主体的な学びの実現を目指す改革の延長線上に、定期考査の廃止と単元テストを軸にした単元ごとの評価の導入が行われたと、川村俊彦副校長は説明する。

「各教科・科目の学習の到達目標を生徒が自分で決めるのであれば、目標に到達する時期も生徒に決めさせて、学びの見通しを持つ経験を積ませたい。そして、もし自分が設定した目標に到達しなかった時は、今の自分は何ができて、何ができていないのかを自

分で把握し、目標に到達するために何度でも挑戦できる仕組みをつくらうと考え、評価の改革に着手しました」

かつての同校における総括的評価の中心は、多くの学校と同様、定期考査で実施されるペーパーテストだった。定期考査は決められた時期に一律に実施されるが、部活動で全国レベルの活躍をする生徒や探究学習などで校外での活動に取り組む生徒、テスト期間中に体調不良になった生徒などは、万全のコンディションでテストに臨めるとは限らない。また、例えば1学期に低い点数を取ってしまったと、その時の出題内容を2学期以降に努力して習得したとしても、評価の結果を変えることはできないのが定期考査だ。

さらに、授業における単元間の切れ

目で定期考査が実施されるとは限らず、単元の途中で定期考査が行われることも多かった。そのため、各単元で育成を目指す資質・能力を丁寧に評価することが難しかった（図1）。

「大切なのは、生徒が確実に学力を身につけることであり、例えば1学期に学習した単元を2・3学期に理解することがあってもよいはず。本物の学力を身につけさせるためには、定期考査を区切りにして評価するのではなく、再チャレンジの機会を与えることが必要だと考えました」（川村副校長）

そこで同校では、23年度から普通科DLコースの学問探究専攻で定期考査を廃止し、各単元の学習後に行う単元テストを軸にした単元ごとの評価を導入。さらに、希望する生徒には単元テ

ストの再チャレンジを認めることとした。23年度は2年次の学問探究専攻のみでの導入だったが、24年度からは1・2年次のDLコース全体に拡大した。

1学期の単元テストの成績が2学期以降の再挑戦で更新

評価の考え方は図2の通りだ。従来

は学期ごとに成績をつけて、最後にそれを足して学期数（同校は4学期制）で割り、総括的評価を行ってきた。当然、一度成績がついた学期の評価を変えることはできなかった。一方、新しい評価の考え方では、2学期は1・2学期の成績で、3学期は1〜3学期の成績で評価するというように、常に年度内のすべての単元が評価対象とな

る。そして、単元ごとの評価の材料となる単元テストの成績は、再チャレンジによって更新可能とした。

例えば、1学期に行った単元1の単元テストの結果が100点満点で40点であったも、2学期や3学期に再チャレンジして80点になれば、単元1は80点で評価される。

「私たちが育てたいのは、最初の結



川村俊彦 副校長
かわむら・としひこ
同校に赴任して3年目。理科（化学）。

吉田俊哉 キャリアセンター部長
よしだ・しゅんや
同校に赴任して8年目。地理歴史・公民科（公民）。

野村学 教務副部長
のむら・まなぶ
同校に赴任して21年目。国語科。

今井智大 キャリアセンター副部長
いまい・ともひろ
同校に赴任して9年目。数学科。

学校概要

設立 1951（昭和26）年
形態 全日制／普通科・グローバルビジネス科・メカニクエンジニアリング科／共学
生徒数 1学年約300人
2023年度卒業生進路実績 国立大は、岩手大、公立はこたて未来大、岩手県立大、東京都立大などに8人が合格。私立大は、専修大、日本大、早稲田大、神奈川大、立命館大などに延べ134人が合格。

図1 これまでの定期考査の課題（「化学基礎」を4学期制で学ぶ場合）

単元1			単元2							
物質の分類と分離	物質の三態	原子の構造	電子配置	イオンの形成	イオン結合	共有結合	配位結合／金属結合	元素の周期的性質	分子間に働く力	結晶の性質
1学期の学習範囲=定期考査範囲 40点							2学期の学習範囲=定期考査範囲 60点			

課題1) 授業における単元間の切れ目で定期考査が行われるとは限らず、単元の途中で定期考査が行われることも多いため、各単元で育成を目指す資質・能力を丁寧に評価することが難しい。

課題2) 1学期の定期考査が40点だったとすると、その定期考査の範囲だった単元の理解度が2学期以降、40点以上になっても、1学期の定期考査の40点は変わらず、それが評定に反映されてしまう。

※学校資料を基に編集部で作成。

図2 再チャレンジが可能な、単元ごとの評価の仕組み

	1学期			2学期		
	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5	単元6
知識・技能	10	20	20	10	10	10
思考・判断・表現	10	20	10	10	10	10
主体的に学習に取り組む態度	10	10	10	10	10	10
単元の素点 計	30	50	40	30	30	30
学期の評点	40			30		

再チャレンジ可能な単元テストで評価

	1学期			2学期		
	単元1	単元2	単元3	単元4	単元5	単元6
知識・技能	10 20(再)	20 30(再)	10 20(再)	単元テストの再チャレンジの実施方法や時期は各教科・科目によって異なり、学期を超えて複数回チャレンジできる教科・科目もある。		
思考・判断・表現	10 20(再)	20 40(再)	10 20(再)			
主体的に学習に取り組む態度	10	10	10			
単元の素点 計	30 50	50 80	40 50			
学期の評点	40 60					

※学校資料を基に編集部で作成。

* 1 Problem Based Learning、または Project Based Learning の略。

果が40点だったとしても、60点、80点を目指して努力を続けることのできる生徒です。再チャレンジによって弱点を克服することができたのなら、それは真の学力が身についたということでしょうし、1年間で何が出来るようになったか、何を身につけたかを正しく見取り、その結果を評定に反映させることが真の評価のあり方だと考えています」（川村副校長）

再チャレンジの方法・時期は教科・科目ごとに決定

単元テストの再チャレンジの実施方法やタイミングは、各教科・科目担当に任されている。川村副校長が担当する化学では、毎週火曜日を再チャレンジの日として、朝の「専北塾」*2の時間で単元テストの再チャレンジを行っている（写真）。生徒は、再チャレンジしたい単元を川村副校長に申し出て、川村副校長はその都度、新しいテストを用意して取り組ませている。

数学の今井智大先生のクラスは、昼休みや放課後に単元テストの再チャレンジを受け付けている。既に8割近い点数が取れていても、よりよい成績を目指して再チャレンジを希望する生徒もいる。なお、今井先生は、単元テス

トの得点が3割以下の生徒には、学力保障の観点から、再チャレンジを必須としている。

野村学先生が担当する国語では、単元テストの結果と単元末に課すレポート、そして「R0」（*3）を材料に、単元ごとの評価を行っている。単元テストでは主に知識・技能の観点で、単元末レポートでは主に思考・判断・表現の観点で評価する。単元末レポートのテーマは、単元で取り上げた素材文の内容が、他教科・科目や社会的なトピックなどどうつながっているのかを考えさせるものになっている。

「当初の単元末レポートは、単元で取り上げた素材文の内容を振り返るだけのものでした。ところが何人かの生徒が、学んだ内容だけでなく、ほかの教科・科目の内容との関連まで言及したレポートを書いてきたのです。教師の想定を超えて生徒は学びを広げられるのだと気づき、単元末レポートのテーマを変えることにしました。生徒の可能性を知ったことで、評価のあり方が改善されたのです」

生徒が持つ資質・能力の高さに気づいた野村先生は現在、単元テストで初見の素材文を使用することを検討している。「汎用的な力を身につけさせるため

に上がっている。また、単元ごとに丁寧に評価を行うようになったことで、生徒の資質・能力を見取る教師の力が高まっているように感じると、吉田先生は語る。「単元ごとの評価を実施するようになってから、評価方法の引き出しが自分の中で増えています。私が担当する公民科では、単元テストだけでなく、パフォーマンステストを実施する機会を充実させたのですが、「この生徒はこんな深い洞察をするのか」などと驚かされることも増えました。定期考査で出していたような問題では見逃していた生徒の資質・能力を発見することができています」

今後の課題は、単元テストの再チャレンジの時間をいかに確保するかだ。再チャレンジは希望制のため、授業中に行うのは難しく、現状は朝の専北塾の時間や昼休み、放課後に行っている。生徒と教師双方の負担を軽減するため、Classi（*4）を活用した（CBT）*5形式での実施もいくつかの教科・科目で始まっている。

単元ごとの評価の実施を契機に、これまで以上に生徒一人ひとりと向き合っていきたいと、川村副校長は語る。「単元テストを軸にした単元ごとの評価や単元テストの再チャレンジを果

たは、教科書に載っている素材文とは異なる素材文を使った単元テストを行い、単元の学習目標に到達しているかどうかを見る必要があります。それが実現できれば、大学入試にも対応できる学力を単元テストを通して育むことが可能になると考えています」（野村先生）

には、教科書に載っている素材文とは異なる素材文を使った単元テストを行い、単元の学習目標に到達しているかどうかを見る必要があります。それが実現できれば、大学入試にも対応できる学力を単元テストを通して育むことが可能になると考えています」（野村先生）

評価と学力について議論する中で不安が払拭

定期考査の廃止と単元テストの実施が決まった当初は、「定期考査がないと生徒が集中して勉強しなくなるのではないか」「頻りに単元テストが実施されるようになると、生徒が単元テストの対策に追われ、疲弊するのではないか」といった不安を口にしている教師も少なくなかった。そうした声に対して川村副校長は、定期考査が抱えている問題や、単元テストを軸にした単元ごとの評価の意義を説き、教師間の共通認識を図っていった。そして、単元テストの実施が始まってしばらくすると、生徒が日常的に学習する姿が見られるようになり、教師たちの考えは変わっていった。

キャリアセンター部長の吉田俊哉先生は、学校を変えなければならない

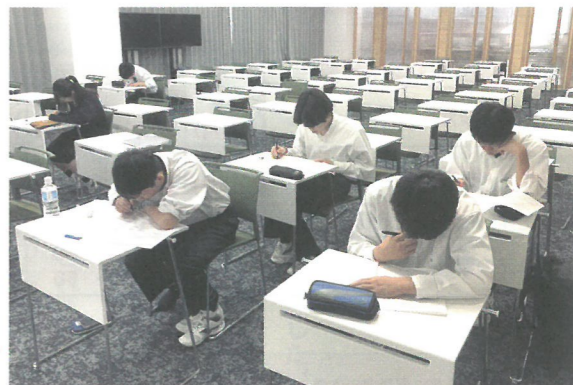


写真 3年生「化学」の単元テストに再チャレンジする生徒たち。

という思いを、教師たちが潜在的に持っていたと指摘する。「少子化が進む中、学校の魅力を高めていかなければいけないという意識を、私たち教師も少なからず持っているのだと思います。それが定期考査の廃止と単元テストの実施という変化を受け入れる素地になってきたのかもしれない。定期考査の廃止と単元テストの実施は22年度の生徒募集でもしっかり告知しており、生徒は改革が行われている前提で入学しているので、保護者などから定期考査の廃止に対する問い合わせはありませんでした」

定期考査の廃止や単元テストの実施

が教師たちに受け入れられたのは、単元ごとに評価することの意義をしっかりと伝えたことも大きかったと、川村副校長は振り返る。「その場しのぎではない真の学力を生徒につけさせたいという思いは、どの教師も同じです。定期考査の廃止や単元テストの実施という手法論から入るのではなく、評価の目的や生徒に身につけさせたい学力を何よりも優先して伝えたからこそ、教師間の共通認識が図れたのだと思います」

生徒一人ひとりに寄り添う教科面談を充実させる

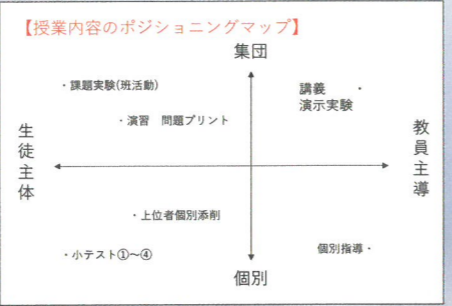
一つひとつの単元をどのように教えるのかを、教師がより深く考えるようになったことも成果の一つだ。

「単元ごとの評価を行うようになったことで、その単元を通して生徒にどのような力を身につけさせるのか、そのためにどんな学習に取り組ませ、どのように評価するのか、授業計画をこれまで以上に練り、見直しを持って各単元に入っていくようになりました」（野村先生）

学期シラバスを基に単元シラバス（図3）を作成する教科・科目も出てきており、授業改善のスピードはさら

図3 単元シラバスの例（「化学基礎」）

特徴	単元内容
1 ①イオン結合イオンの生成	【講義】イオンの生成について【演習】問題プリント配布・イオンの小テスト①
2 イオンの表し方イオンのなりやすさ	【講義】イオン化・電子親和力について【演習】問題プリント配布・小テスト②
3 組成式の表し方	【講義】組成式の表し方【演習】組成式の小テスト③
4 【課題実験】イオン・イオン結晶の性質	水溶性・電導性(塩化ナトリウムの融解時の導電性・電導率)の測定【演習】分子の小テスト④
5 ②共有結合 分子の生成	【講義】分子の成り立ち【演習】分子の小テスト⑤
6 電子式・構造式	【講義】電子式の表し方【演習】問題プリント配布
7 結合の種類・配位結合	【講義】配位結合について【演習】問題プリント配布
8 分子の極性・実験説明	【講義】次の実験の説明【演習】小テスト⑥
9 【課題実験】分子の極性	四塩化炭素の性質確認 極性・無極性物質の相違点
10 実験のまとめ	【講義】実験の考察【演習】問題プリント配布
11 分子結晶・高分子化合物	【講義】分子結晶【演習】高吸水性樹脂
12 共有結合の結晶	【講義】性質の説明【演習】問題プリント配布
13 金属結晶	【講義】自由電子と金属結晶【演習】問題プリント配布
14 化学結合のまとめ	【講義】化学結合のまとめ【演習】小テスト⑦



1つの単元をどのように展開・指導し、評価していくか、学びのストーリーを教師が描くために単元シラバスを活用したいと考えている。その際、進度やレベルだけでなく、講義中心か、生徒の活動中心かなど、学びのスタイルも意識する。今後、評価の観点や評価方法も単元シラバスに加え、単元シラバスを練り上げていく考えだ。

*学校資料を基に編集部で作成。

施する目的は、生徒が自分で立てた目標を達成しようと学びに向かうマインドを育成することにあります。目標と現状にギャップがある生徒を見逃すことなく、教科担当の教師が個別に面談

を行い、学習状況を生徒と一緒に検証して、学習方法の見直しや単元テストの再チャレンジを勧めるなど、生徒の主体的な学びを支えていきたいと考えています」

*4 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。
*5 Computer-Based Testing の略。コンピュータ上で実施する試験。

*2 生徒が自分の学びたいこと、深めたいことを大切に自ら選択し、専門性を高める放課後や長期休業中の学びの場。
*3 接続詞で結ばれた2文構成かつ80文字以内で活動を振り返る。「R」は、リフレクション（振り返り）とリストラクチャー（再構築）のこと。茨城県立並木中等教育学校の中島博司元校長が考案。

私たちにとって「テスト」とは

テストが生徒と教師の「学びのコミュニケーションツール」であるならば、定期考査の廃止と単元テストの実施は、そのコミュニケーションのあり方にどのような影響を与えるのだろうか。単元ごとの評価に移行している3校の生徒が、定期考査のなかった高校生活を振り返りながら、卒業年次生として思う「テストの意義」について、VIEWnext編集部統括責任者の柏木崇と語り合った。

最初は戸惑った単元テスト。次第に学習習慣が身についてきた

北村 皆さんは、定期考査を廃止して単元テストを実施している高校でこれまで学んできました。3人とも中学校時代は定期考査があったそうですが、高校で定期考査がなくなったことで、日々の学習への取り組み方は変わりましたか。

松田 単元テストになったことで、テストの回数自体は多くなって、最初のうちは負担に感じたこともありました。でも徐々に慣れてきて、中学生の時よりも家庭学習の時間が少しずつ増えていきました。**六串** 部活動で遅く帰宅した翌日に単元テストがある

分でもいいから毎日勉強することが大事だよ」と声をかけ続けてくれたからだと思います。**北村** みんなで勉強する環境があることも大事だと思います。私の学校では放課後、友人と協力しながら簿記の勉強に取り組める環境を先生たちがつくってくれています。私の場合、勉強のやる気の一歩の源は公認会計士になりたいという夢で、そのやる気を、友人と励まし合いつつ維持しています。**柏木** 定期考査が単元テストになればよいというわけではなく、勉強のやる気を高めるために大事なものはまた別にありそうですね。では、皆さんにとってテストとはどういう存在なのでしょう。

北村 私にとってテストは、夢の実現を支えてくれるものです。テストを受けた時点で自分の力を把握し、夢に近づいていることを実感できるようなテストであってほしいです。**松田** 僕も単元テストや模擬試験で今の自分の力を知ることができています。でも、大学入試本番に向けて、不安も少しずつ大きくなってきています。**六串** 大学入試のことは、私も不安です。だからこそ、学校のテストが自分の不安を少しでも解消してくれるものであったらいいと思います。「学校のテストでよい成績を取れたのだから、本番のテストもきつと大丈夫」と、自分の実力に自信を持って入試本番に臨むことができるのではないかと思います。

柏木 希望進路を実現するためのテストがあつて、その一番大切なテストに対する不安を、先生や友人とのかかわり、そして学校で受ける様々なテストを通して、少しでも軽減できたらいいですね。皆さん、進路実現に向けて、引き続き勉強、頑張ってください！



奈良県立橿原高校 普通科・3年生 松田昇太郎
奈良県立商業高校 会計科・3年生 北村桃佳
岩手県・私立専修大学北上高校 普通科・3年生 六串海遥
VIEW next編集部 統括責任者 柏木崇

と……」と感じることはありませんか。

松田 単元テストに合わせた勉強の習慣がなかなかつかなくて戸惑った人はいます。先生にアドバイスをもらったり、友人と一緒に勉強したりして、早く慣れることが大事なのかなと思います。

六串 単元テストが1日に複数回ある時は、定期考査と同じように大変だと感じることもあります。

柏木 定期考査の方がよかつた点はありませんか。

六串 中学生の時に、「定期考査で〇位以上だったらお小遣いをちょうだい」と母にお願いしたり、仲のよいクラスメートと競い合ったりしたのは楽しい思い出です。

北村 単元テストは自分との勝負で、定期考査は点数や順位を人と比べやすいテストだと思います。

テストは夢や進路の実現を支えてくれるもの

柏木 3人とも学習習慣が身につけているようですが、それは単元テストのおかげですか。

六串 単元テストよりも、模擬試験が終わった後などに行われる先生との面談の方が影響は大きいと思います。個人帳票の具体的な数字を見ながら、「化学のこの単元は応用力が身につけていないね」などと先生に教えてもらうことで苦手な単元に気づき、該当の単元テストに再チャレンジして、苦手が克服できたかを確認しようという気持ちになります。

松田 先生の声かけは大きいと僕も思います。高校生になって少しずつ家庭学習の時間が増えていったのは、先生が折に触れて「疲れていても、10分、20

つた時は、大変だと感じたこともありました。でも、単元テストは定期考査に比べて出題範囲が広くないことに着目し、隙間時間を有効活用しようと考えました。スマートフォンなどを使ってこまめに勉強したところ、単元テストは苦ではなくなりました。**柏木** 単元テストのよいところを教えてください。**松田** テストの実施回数が多いので、1回のテストの結果が悪くても、2回目、3回目のテストで挽回ができると思います。

六串 私の高校では、同じ単元の単元テストに再チャレンジすることがあります(P.4〜7参照)。例えば、単元テストの前日まで部活動に時間が取られてしまい、その単元テストで納得のいく成績が取れなくても、再チャレンジして成績を更新することができず。部活動も勉強も頑張りたい自分には、とても合っていると思います。**北村** 定期考査のように、短期間にいろいろな教科・科目を勉強しなくてよいところが、自分は勉強しやすくいいなと思っています。**柏木** 反対に、単元テストについて「ここはちょっ

本特集を振り返って

定期考査の「存続」「廃止」の結論ありきではない議論を

本特集では、「定期考査は必要か」「その答えは、どのような点を考えれば出るのか」といった問いを立て、定期考査の見直しに関するデータや事例、テスト研究の専門家へのインタビュー、そして高校生との対話を通じて考えてまいりました。

後者の問いについては、「定期考査は何のためを実施するのか」「その目的を果たすものになっているか」といった、自校の定期考査の目的の確認と現状の把握が答えの1つだと考えます。3つの事例でも、自校で育てたい生徒像や育成を目指す資質・能力の共通認識を図るところから議論は出発し、その目的を果たすための手段の1つとして、定期考査の廃止という結論に至っていました。自校の定期考査の目的や現状を考えることで出る、前者の問い「定期考査は必要か」の答えは、スクール・ポリシーや学校を取り巻く環境(教員数・生徒数、生徒の気質や学力の状況等)によって異なってくる、すなわち、「存続」「廃止」どちらの結論もあり得ると考えます。だからこそ、結論ありきではない、学習評価の本質に立ち返った議論を、校内で実施していただきたいと思えます。



VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木崇